
ビターチョコレート

大島なるみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ビターチョコレート

【Nコード】

N0375D

【作者名】

大島なるみ

【あらすじ】

ただ甘いだけが全てじゃない。それは恋愛だって同じ事……ちょっぴりビターなショートショートです。

それは、いつからだっただろう？
思えば私は、このほろ苦甘い感覚に、いつの間にか魅せられていたんだ。

ビターチョコレート

それを口にしたその瞬間に、
「チョコレートは甘い食物だ！」

などという、偏見まがいな私の見解は見事に崩れ去った。

それ、とはまさにビターチョコレートだ。

チョコレート特有の甘さ、それは他のものとさほど何ら変わりはない。

けれど、1つだけ異なる点がある。

それが、この甘さに包まれたほろ苦さ。

甘い食べ物でありながら、まるで正反対のほろ苦さを感じるのだ。

（美味しい……）

私はその瞬間から、このビターチョコレートの虜になった。

そして……。

「もうそろそろ帰らないと……」

隣で煙草の火をくゆらせていた彼が、スツと立ち上がった。

私の部屋に来る彼は、決まってこの時間に、この行動を繰り返している。

「そう……なら、仕方ないわね」

私がそう言くと、彼は去りぎわに軽く1つキスをくれた。そして、

「また来るよ」と言葉を残しながら去っていく。

必要とされているのは確かなのに。

大事に思う気持ちは同じなのに。

何かが違う。

それはまるで、それまでの見解を一気に覆されたデジャヴ。

私はそつと触れた唇を指でなぞる。

何故かそこには、それに似た甘いほろ苦さが残っている。

……そんな感じがした。

End .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0375d/>

ビターチョコレート

2010年12月12日14時35分発行